

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	0201	林道台帳索引番号番号	12	施設管理者	白糠町
路線名	林道庶路青山線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	中庶路橋
施設の所在地	白糠町中庶路	起点からの距離	44m	建設年度	1990
供用年数	29	種別	鋼橋	型式	鋼溶接橋I桁
道路橋示方書	昭和55年度版	橋格(設計荷重)	2等橋(14t)	橋下条件	庶路川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	13.86m(13.3m)		幅員(車道幅員)	6.2m(5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	鋼溶接橋I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	有
		支承形式	支承板支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	杭基礎	
橋脚工型式	T型橋脚円柱型(RC)		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道庶路青山線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により利用されている。また、交通量の極めて少ない施設であるが、一部世帯の生活道路として利用されており、災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道としての機能も有している。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月2日				
	調査結果	主桁他工部材に腐食が局部的に見られ、張出床版に遊離石灰を伴うひび割れが見られる。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。地覆の剥離・鉄筋露出、ひびわれ、遊離石灰は、状況に応じて(進行性等)補修が必要である。			
	劣化原因	塗装は経年劣化、床版の遊離石灰は橋面防水未施工によるものと推定する。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和1年度～令和10年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和6年度に点検実施予定とする。				
	施設の優先度	低	(健全度の考え方) 判定区分 I のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	橋梁点検 約 5,000千円				
管理方法	長寿命化計画として、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	2.5					2.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	0202	林道台帳索引番号番号	12	施設管理者	白糠町
路線名	林道庶路青山線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	オレウケナイ橋
施設の所在地	白糠町中庶路	起点からの距離	766m	建設年度	1989
供用年数	30	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和55年度版	橋格(設計荷重)	1等橋(20t)	橋下条件	オレウケナイ川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	13.9m(13.3m)		幅員(車道幅員)	6.2m(5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PC橋 プレテン中空床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	半重力式橋台		基礎形式	杭基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道庶路青山線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により利用されている。また、交通量の極めて少ない施設であるが、災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道としての機能も有している。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月1日				
	調査結果	床版間詰から局部的に遊離石灰が生じている。また、後打ちコンクリートと路面との間に段差(5cm)が生じており、走行安全性や構造物に悪影響を及ぼす可能性がある。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	床版間詰部にて遊離石灰(局部的に排水管の錆汁含む)が見られる。道路橋の機能に支障はないものの、予防保全の観点から橋面防水を行うことが望ましい状態である。			
	劣化原因	床版の遊離石灰は橋面防水未施工、路面の段差は土工部の沈下または車両走行によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和1年度～令和10年度				
	内容	橋面防水工による補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全段階として、令和5年度に補修工事実施予定とする。				
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 判定区分Ⅱのため、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	橋梁点検 約 1,000千円、橋面防水工 約 6,500千円				
管理方法	長寿命化対策として橋面防水工による補修を行い、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.5			4.0	2.5	0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検			補修設計	補修工	定期点検				

備考

個別施設整理番号	0203	林道台帳索引番号番号	12	施設管理者	白糠町
路線名	林道庶路青山線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	北村橋
施設の所在地	白糠町中庶路	起点からの距離	3361m	建設年度	1993
供用年数	26	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和55年度版	橋格(設計荷重)	1等橋(20t)	橋下条件	オレウケナイ川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.54m(12.0m)	幅員(車道幅員)	6.2m(5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PC橋 プレテン中空床版		
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	

施設の目的利用実態等
 林道庶路青山線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により利用されている。また、交通量の極めて少ない施設であるが、災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道としての機能も有している。

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年9月30日			
	調査結果	主要部材は損傷が無く、健全である。地覆剥離部(間詰)は滞水による凍害の進展が懸念される。また、A1、A2の後打ちコンクリートと路面との間に段差(それぞれ3cm、4cm)が生じている。			
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。路面の凹凸は、状況に応じて補修が必要である。		
	劣化原因	地覆の剥離は凍害によるもの、路面の段差は土工部の沈下または車両走行によるものと考えられる。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和1年度～令和10年度			
	内容	定期点検			
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和6年度に点検実施予定とする。			
	施設の優先度	低	(健全度の考え方) 判定区分 I のため、優先度は「低」とした。		
	対策費用(概算)	橋梁点検 約 1,000千円			
管理方法	長寿命化計画として、5年に1回の定期点検を行う。				

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

個別施設整理番号	0204	林道台帳索引番号番号	5	施設管理者	白糠町
路線名	林道上茶路線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	田代橋
施設の所在地	白糠町上茶路	起点からの距離	10m	建設年度	1978
供用年数	41	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	昭和47年度版	橋格(設計荷重)	2等橋(14t)	橋下条件	茶路川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	75.0m(24.35m)		幅員(車道幅員)	5.0m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	鋼溶接橋桁(合成)			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	逆T式		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	壁式(RC)		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道上茶路線の利用区域には、早期に整備すべき森林が存在することから、当該施設は森林組合等により利用されている。また、交通量の極めて少ない施設であるが、一部世帯の生活道路として利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月1日				
	調査結果	下部工、地覆水掛かり部に遊離石灰を伴うひび割れが著しく、局部的にうきが生じている。微細であるものの、床版においても遊離石灰を伴うひび割れが顕著で、一部鉄筋が露出している。また、支承モルタルが剥離している。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	下部工、床版、地覆にASRが疑われるひび割れが見られる。道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態である。			
	劣化原因	いずれの部材もASRが原因である可能性が高く、下部工と地覆のうきは凍害が作用しているものと推定する。床版のひび割れはかぶり不足(中性化)も疑われる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和1年度～令和10年度				
	内容	伸縮装置取換え・橋面防水工・地覆打換・桁、支承の塗装塗替・下部工補修による補修を行う。				
	実施予定時期	早期措置段階として、令和3,4年度に補修工事実施予定とする。				
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 判定区分Ⅲのため、優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	橋梁点検 約 3,000千円、 伸縮装置取換え・橋面防水工・地覆打換・桁、支承の塗装塗替・下部工補修 約 105,000千円				
管理方法	長寿命化対策として、伸縮装置取換え・橋面防水工・地覆打換・桁、支承の塗装塗替・下部工補修を早期に行うとともに、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	1.5		15.0	90.0		1.5				
対策の内容・実施時期	定期点検		補修設計	補修工		定期点検				

備考

個別施設整理番号	0205	林道台帳索引番号番号	5	施設管理者	白糠町
路線名	林道上茶路線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	ピラウンナイ橋
施設の所在地	白糠町上茶路	起点からの距離	815m	建設年度	1981
供用年数	38	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	昭和55年度版	橋格(設計荷重)	2等橋(14t)	橋下条件	ピラウンナイ川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	25.0m(24.3m)		幅員(車道幅員)	5.0m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	鋼溶接橋桁(合成)			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	線支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道上茶路線は閉鎖型林道のため、交通量の極めて少ない施設であるが、利用区域には、早期に整備すべき森林が存在することから、当該施設は森林組合等により利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月15日				
	調査結果	床版に橋軸直角方向にかぶり不足の鉄筋が複数確認された。また、支承が広範囲に腐食しているが、板厚減少には至っていない。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	支承にて腐食が見られる。道路橋の機能に支障はないものの、予防保全の観点から支承の塗装塗替えを行うことが望ましい状態である。床版の鉄筋露出、伸縮装置の漏水は、状況に応じて(進行性等)補修が必要である。			
	劣化原因	床版の鉄筋腐食は施工不良(中性化)によるもの、支承の腐食は塗装の経年劣化と推定する。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和1年度～令和10年度				
	内容	支承塗装塗り替えによる補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全段階として、令和5年度に補修工事実施予定とする。				
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 判定区分Ⅱのため、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	橋梁点検 約 1,000千円、支承塗装塗り替え 約 15,000千円				
管理方法	長寿命化対策として、支承塗装塗り替えによる補修を行い、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.5			5.0	10.0	0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検			補修設計	補修工	定期点検				

備考

個別施設整理番号	0206	林道台帳索引番号番号	9	施設管理者	白糠町
路線名	林道中庶路線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	ケトンチ川橋
施設の所在地	白糠町中庶路	起点からの距離	47m	建設年度	1985
供用年数	34	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	昭和55年度版	橋格(設計荷重)	2等橋(14t)	橋下条件	ケトンチ川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.4m(10.0m)		幅員(車道幅員)	4.8m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PC橋 プレテン床版			
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式		基礎形式	直接基礎	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道中庶路線は交通量の極めて少ない施設であるが、利用区域には、早期に整備すべき森林が存在することから、当該施設は森林組合等により利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月1日				
	調査結果	床版間詰から局部的に遊離石灰が生じている。また、後打ちコンクリートと路面とに段差(3cm)が生じており、走行安全性や構造物に悪影響を及ぼす可能性がある。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障はないものの、予防保全の観点から橋面防水を行うことが望ましい状態である。主桁・橋台の剥離および路面の凹凸は、状況に応じて補修が必要である。			
	劣化原因	床版の遊離石灰は橋面防水未施工、路面の段差は土工部の沈下または車両走行によるものと考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和1年度～令和10年度				
	内容	橋面防水工による補修を行う。				
	実施予定時期	予防保全段階として、令和5年度に補修工事実施予定とする。				
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 判定区分Ⅱのため、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	橋梁点検 約 1,000千円、橋面防水工 約 6,000千円				
管理方法	長寿命化対策として、橋面防水工による補修を行い、5年に1回の定期点検を行う。					

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年
対策費用(百万円)	0.5			4.0	2.0	0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検			補修設計	補修工	定期点検				

備考